

「視点を変える」練習のための映画・書籍

『精神』 想田和弘 2009 年劇場公開 販売元：紀伊國屋書店

時間：135 分 ASIN: B003JL0HT6 EAN：4523215054331 参考価格：3,990 円

『精神病とモザイク タブーの世界にカメラを向ける』 想田和弘 2009 年 中央法規出版

ISBN-10: 480583014X ISBN-13: 978-4805830147 1,470 円

岡山県にある精神科診療所に通院する患者を被写体としたドキュメンタリー映画である。自分自身が精神疾患・精神障害を持つ人であることを周囲の人々にカミングアウトすることが難しいということは、そのような疾患・障害を持たない人（つまり、われわれの多く）にも簡単に理解できる。では、なぜ、この映画に出演している患者は、カミングアウトするどころか、カメラの前に（つまり、この映画を見ているすべての人に）自分をさらけ出すことができたのであろうか。また、患者がさらけ出しているものは何なのか。一方で、われわれがさらけ出すことができないものは何なのか。また、われわれにはそれらをさらけ出すことができるだろうか。

想田はこんにち大きな注目を浴びている映画監督の一人だ。ただし、想田の作品に限らず、ドキュメンタリー映画やノンフィクション映画は集客が見込めるような娯楽映画ではないためか、シネマコンプレックスなどの通常の映画館では上映されないことが多い。ドキュメンタリー映画やノンフィクション映画に関心がある人は、静岡県内では、シネマイーラ（浜松市）と静岡シネギャラリー（静岡市）の上映作品をチェックするとよい。想田のドキュメンタリー映画に対する姿勢については、以下を読んでもらいたい。

『なぜ僕はドキュメンタリーを撮るのか』 想田和弘 2011 年 講談社（講談社現代新書）

ISBN-10: 4062881136 ISBN-13: 978-4062881135 798 円

『A』 森達也 1998 年劇場公開 販売元：マクザム

時間：135 分 ASIN: B00009P68I EAN：4932545983271 参考価格：5,040 円

『A2』 森達也 2001 年劇場公開 販売元：マクザム

時間：126 分 ASIN: B00009P68J EAN：4932545983288 参考価格：5,040 円

『A マスコミが報道しなかったオウムの素顔』 森達也 2002 年 角川文庫

ISBN-10: 4043625014 ISBN-13: 978-4043625017 660 円

「坂本弁護士一家殺害事件」「松本サリン事件」「地下鉄サリン事件」などを引き起こしたオウム真理教（現アレフ）を、広報担当者である荒木浩を中心に密着取材することで、出家信者の日常生活や宗教活動、地域住民の排斥運動、信者の周辺に起こる「不思議な出来事」、これらの「現実」を映し出したドキュメンタリー映画である。「宗教の名を借りた極悪非道人面獣心なカルト団体」を取り巻く「現実」を知ること、われわれは何を学ぶべきなのか。森の映し出した「現実」とわれわれが日常的に触れているマスメディアが映し出した「現実」は、どちらも「現実」なのだが、いったい何が同じで何が違うのだろうか。2つの異なる「現実」に直面するわれわれは、どのように折り合いをつけるべきなのだろうか。そもそも「現実」とはいったい何だろうか。

なお、森は『A』『A2』の続編にあたる書籍『A3』で「第33回講談社ノンフィクション賞」を受賞している。一方で、この受賞に対しては強い批判もある。例えば、破壊的カルトに関する研究を行っている「日本脱カルト協会」は講談社に抗議文を送付している。なお、この抗議文はインターネットに公開されているので、誰でも読むことができる。この抗議文に対する森の反論もインターネットで読むことができる。

- 『星の王子さま』 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ（訳：内藤濯） 2000 年 岩波書店（オリジナル版）
ISBN-10: 4001156768 ISBN-13: 978-4001156768 1,050 円
- 『星の王子さま』 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ（訳：内藤濯） 2000 年 岩波少年文庫
ISBN-10: 4001140012 ISBN-13: 978-4001140019 672 円
- 『星の王子さま』 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ（訳：池澤夏樹） 2005 年 集英社文庫
ISBN-10: 4087604942 ISBN-13: 978-4087604948 400 円
- 『星の王子さま』 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ（訳：石井洋二郎） 2005 年 ちくま文庫
ISBN-10: 4480421602 ISBN-13: 978-4480421609 609 円
- 『星の王子さま』 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ（訳：河野万里子） 2006 年 新潮文庫
ISBN-10: 4102122044 ISBN-13: 978-4102122044 500 円
- 『新訳 星の王子さま』 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ（訳：倉橋由美子） 2006 年 宝島社文庫
ISBN-10: 4796653074 ISBN-13: 978-4796653077 500 円
- 『星の王子さま』 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ（訳：管啓次郎） 2011 年 角川文庫
ISBN-10: 4042982190 ISBN-13: 978-4042982197 500 円

聖書に次ぐベストセラーとも言われるこの絵本は、世界で8000 万部以上が、日本でも600 万部以上がこれまでに販売されている。一般に、絵本とは子供向けのものだと考えられている。このため、絵本は大人が読むことは「子供じみた」ことだとされることが多い。しかし、われわれの誰もがかつては子供だったのだ。では、われわれはいつから「大人」になったのだろうか。何をもって「われわれは大人になった」と言えるのだろうか。「子供」でありつづけることは許されないことなのだろうか。作者サン＝テグジュペリは献辞で、この絵本を大人（より正確には、子供だった頃の大人）に捧げると述べているのだが、このこともふまえて、さまざまなことがらをじっくり考えてもらいたい。

『星の王子さま』は、日本では岩波書店から出版されている内藤濯による翻訳（1953 年＝2000 年）が「オリジナル」である。しかし、現在では、さまざまな出版社からさまざまな「新訳本」が出版されている。文庫で入手できるものだけでも上記のとおりである（これ以外にもあるかも知れない）。新訳本が数多く出版されているのにはもちろん正当な理由があるのだが、それはいったいどのような理由だろうか。いわゆる「著作権」の問題だが、ぜひ調べてもらいたい。

話を大きく変える。『星の王子さま』にまつわるさまざまなことがらを調べるため、パソコンを使ってインターネットで調べてみた。検索サイト Google で絵本のタイトルをキーワードとして情報を検索してみると、右図のとおり、福岡県にある風俗店が検索結果の最上位に挙がり、あわせて、風俗店の周辺地図が表示された（平成 25 年 8 月 5 日午後 4 時 1 分確認）。もちろん、この風俗店は絵本とは何の関係もない。なぜこのようなことが起こるのだろうか。インターネットを媒介にしたコミュニケーションの特徴や長所・短所に着目して、この事実について検討してもらいたい。

なお、この文章の印刷時点では、依然として、この風俗店が最上位に挙がっている（平成 25 年 9 月 2 日午後 5 時 27 分確認）。現在の検索結果はどうだろうか。



「視点を変える」練習のためのテレビ番組

『バリバラ』 NHK E テレ 金曜午後 9 時～9 時 30 分

「バリバラ」とは「バリアフリー・バラエティー」の意味である。この情報バラエティー番組には、健常者だけではなく、さまざまな種類の障害をもつ人々が出演している。健常者と障害者、普通と普通でないこと、これらの境界線が曖昧かつ恣意的であることに気づきたい。このことは非常に現代的かつ社会学的な問題だ。

なお、近年、「障害」を「障碍」「障礙」「障がい」と、「障害者」を「障碍者」「障礙者」「障がい者」「障害のある方（人）」と表記したり言い換えたりすることがある。なぜこのような表記や言い換えが利用されるのだろうか。地方自治体の部署名、法律・法令の名称、福祉・支援団体の名称、これらを出発点に情報を検索してみるとよい。もちろん、このことも非常に現代的かつ社会学的な問題だ。

『ロンドンハーツ』 静岡朝日テレビ 火曜午後 9 時～9 時 54 分

『めっちゃ×2 イケてるッ!』 テレビ静岡 土曜午後 7 時 57 分～8 時 54 分

この 2 つのバラエティー番組は、言わば「親が子供に見せたくない番組」のツートップだ。一方で、この 2 つの番組はいずれも言わば「長寿番組」だ（前者は『イナズマ! ロンドンハーツ』として 1999 年から、後者は 1996 年から放送されている）。バラエティー番組の「絶対王者」はなぜこのような「ねじれた」評価を受けているのだろうか。同様の評価を受けている長寿アニメ番組『クレヨンしんちゃん』（1992 年から放送中）についても考察するとよい。現代社会における親子関係のあり方、子育てにおけるメディア利用、その他にもさまざまな社会学的な考察が可能だ。

「流行をリード! ファッション雑誌の作り方」(NHK E テレ『メディアのめ』第 8 回)

NHK のウェブサイト「NHK for School」で視聴可 (10 分、無償)

この番組は、小学校高学年から中学生向けに「メディア・リテラシー」(メディアを媒介にしたコミュニケーションを批判的・実践的に読み解く研究や教育)を紹介する教育番組だが、大人にとっても非常に興味深い内容だ。日常生活で必要となるさまざまな情報をほとんどすべての人はさまざまな「他者」から得ているが、その一つは印刷物や放送を通じて情報を送信しているマスメディアだ。情報源としてのマスメディアはどのように機能しているのか、われわれはマスメディアをどのように利用すべきか、このようなことがらを検討したい。これがマスコミュニケーション研究の基礎だ。

『cool japan 発掘! かわいいニッポン』 NHK BS1 日曜午後 6 時～6 時 45 分

日本の日常生活にごく当たり前に見られる「クール」なことがらを、日本に暮らす外国人の視点から紹介する番組である。日本人が海外に渡航して異文化に触れることは、かつてに比べれば簡単になったとはいえ、さまざまな理由のために、実際には難しいのが現状だ。であれば、実際に海外から渡航して「日本」という異文化に触れている外国人の視点を知ることは、いわゆる「普通の日本人」にとって非常に意義深い。異文化理解・多文化共生という観点でこの番組を視聴しても興味深い。うれしいことに、一般の地デジテレビにもう少しだけ投資すればこの番組を視聴できるので、非常にコストパフォーマンスのよい異文化理解・多文化共生の実践が可能だ。

『クローズアップ現代』 NHK 総合 月～木曜午後 7 時 30 分～7 時 56 分

『ナビゲーション』 NHK 総合 金曜午後 7 時 30 分～7 時 55 分

『特報！しずおか』 テレビ静岡 土曜午前 10 時 25 分～10 時 40 分

『NNN ドキュメント』 静岡第一テレビ 日曜深夜 0 時 50 分～1 時 20 分（または 0 時 50 分～1 時 45 分）

『テレメンタリー』 静岡朝日テレビ 月曜深夜 2 時 25 分～2 時 55 分

『FNS ドキュメンタリー大賞』 テレビ静岡 火曜深夜 1 時 5 分～2 時

『JNN ルポルタージュ』 SBS 日曜深夜 0 時 50 分～1 時 20 分

『NNN ドキュメント』 BS 日テレ 日曜午前 11 時～11 時 30 分（または 11 時～11 時 55 分）

『FNS ドキュメンタリー大賞』 BS フジ 土曜午前 10 時～10 時 55 分

『ザ・ノンフィクション』 BS フジ 土曜午後 2 時～2 時 55 分

『BS 世界のドキュメンタリー』 NHK BS1 月～木曜深夜 0 時～0 時 50 分

「今どきの若者はものを知らない」「ニュース番組を見たり新聞を読んだりして、若者は世の中のできごとにもっと関心を持つべきだ」というような言葉を聞いたことがないだろうか。私も実際に聞いたことがあり、実際に言われたことも言ったこともある。残念ながら、いつの時代も若者は無知なのだ（より正確に言えば、無知に見られるのだ）。また、いつの時代も若者は忙しく、ニュース番組や新聞をチェックする時間がないので、世の中のできごとに関心なのだ（より正確に言えば、無関心であるかのように見えるので、若者と若者ではない人との間に「関心のミスマッチ」が生じているのだ）。だから、若者であるあなたは「そのとおりです。これから知ります。これから見ます。これから読みます。これから関心を持ちます」と言おう。ただし、ニュース番組や新聞をチェックできないくらい忙しいというのは、若者の言い訳に過ぎないようにも思える、ということをお戒の意味を込めて指摘しておく。

世の中のものごとを理解すること、世の中のできごとに関心を持つことは、当然だが非常に難しい。例えば、「政治に関心を持つべきだ」ということばは非常に頻繁に見聞きするが、議会政治・政党政治の仕組みを理解することや、投票行動を通じた政治への参画の意義に関心を持つことは、若者だけではなく若者ではない人にも非常に難しい。大胆に言えば、世の中のものごとやできごとは、仕組みや成り立ちが簡単ではないので、関心を持つ・持ち続けることも難しいし、全容を正確に把握することも難しい。

まったく話を変える。野球やサッカーなどのメジャーな「見るスポーツ」は、テレビでも観戦できるし、ルールを知らなくても観戦できる。しかし、観戦をより楽しいものにするには、ルールを少しだけでも理解しているとよい。実際に試合会場に出かけてみる、会場でアトラクションやイベントに参加する、試合前の練習を見て選手の好不調を推測する、監督の采配や審判の判定を批評する、応援するファンの様子を観察する、試合後に選手や監督に拍手喝采を送る、チームの社長に罵声を浴びせて監督解任を要求する、というような楽しみ方もある。見るスポーツであれば、このように単に楽しむだけでいいかもしれない。

しかし、われわれの日常生活は「見る日常生活」ではない。日常生活ではすべての人が「選手・ファン・監督・審判・観客・社長・イベントプランナー・批評家…」さまざまな役割を同時に担う「特殊な存在」なのだ。このことを強く自覚して、われわれは世の中のものごとやできごとについて関心を持ち理解する必要があるのだ。そうしないと、日常生活で適切なプレー・参加・推測・采配・判定・批評・観察・拍手喝采・要求…ができないからだ。例えば、プロの政治家（議員や市長・県知事など）としてプレーすることはできないとしても、政治活動の観察（監視）や批評ならば意外と簡単にできる。家庭というフィールドなら、父親として子供のしつけや教育について思いを馳せ、意見が違っても妻と共同で人生設計を考えるが、労働と納税の義務が伴うサラリーマンとしての立場も考慮しなければならない、といったオレは何をどうすればいいのだ？…というような感じだ。もちろん、適切な知識がまずは少しだけ必要だ。知識が足りない場合には、誰かが教えてくれるかもしれないが、自分で調べる必要があるのは当然のことだ。

そこで、この資料を読んでいる若者には、上記の番組を見ることを通して、世の中のものごとやできごとについて少しでも関心を持ち理解する、ということをおえて強制し、義務づけたい。上記の番組はすべて、ある一つのものごとやことがらをより深く紹介解説することを試みている。もちろん、上記の番組をすべて見る必要はない。われわれの持つ時間は有限だから、世の中のものごとやできごとのすべてに等しく関心と理解を深める、ということは絶対に不可能なのだ。もし、上記の番組を見ることを通して、あなたの関心や理解が少しでも広がり深まれば、とても素晴らしいことだ。このことは同時に、番組の制作者とあなたが関心や理解を共有することができた、ということの意味するから、本当に素晴らしいことだ。